

学校だより

プラタナス



令和3年7月7日(水) 七夕

市川市立市川小学校

No.12 校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>

悪気がなければ許されますか？その言動…



背は高く肌は黒い。日本人とは思えないリラックスなのに、流暢かつ丁寧な日本語を話すタレントの副島淳さんは、英語を全く話せないといいます。日本人の母親とアメリカ人の父親の間に生まれました。多様な国や文化にルーツを持つ人を「ミックスルーツ」と呼ぶそうです。ただ、こうした人に投げかけられる言動には、悪気はなくてもちょっとした偏見が隠れていることがあります。相手を傷つける言動は、無自覚だからこそ厄介なのかもしれません。

副島さんは、大田区蒲田の出身。小学校3年生で浦安に転居。マンションだらけの新興住宅地は、変わった風貌の新参者への風当たりが厳しかったといいます。「日本人じゃないだろう。英語で話せよ」と、肌の色を指摘されたり無闇にいじめられたりしたそうです。中学校ではネイティブの英語教師に、英語が話せると勘違いされ、「お前はふざけているのか、授業がつまらないのか？」とヒステリックに叱られたことから英語嫌いになったらしいのです。

副島さんは、「リズム感がすごい」「スポーツ万能」と一方的に期待されることからコンプレックスを感じましたが、逆にそれを武器に変えることに成功した一人といえます。「日本人に見えないからといじけていてはダメ。逆に中身とのギャップを見せて相手を驚かせればいい！」と語ります。人と違うことは損じゃない！そんな気持ちを大人も子供も大事にしたいものです。

さて、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が加速度を増しています。「早く打って安心したい」という雰囲気がある中、ワクチンを打たない人、打てない人への差別や偏見が強まることはないでしょうか？「接種しなければ〇〇できない」と迫られて追い込まれていく人、不利益な扱いをされる人が出ることが懸念されます。未成年においても、打たないことがいじめ等の原因になる可能性だって考えられるわけです。



物事や事象には背景があります。そこに目を向けることなく、見える部分だけで判断することのないように、子供たちの世代から丁寧に指導していくことが求められているように考えます。



丸数字は学年を表します

緊急を要する連絡は
夏休みのしおり参照

8/9	月	振替休日	9	木	市内(梨畑等)見学③
8/10	火	学校閉庁日(～13日)	10	金	脊柱側弯症検査⑤
1	水	夏休み明け朝会、引き渡し訓練	15	水	社会科見学④
2	木	給食開始	21	火	夢の教室(オンライン)⑤
8	水	定例研(4校時日課)	22	水	委員会活動
			24	金	修学旅行保護者説明会
			27	月	短縮4校時日課(～10/1)

大切な物はなんですか？物を大切に使っていますか？

学校では持ち主がわからない落とし物がたくさんあります。自分の物に執着がなかったり、大切に
する意識が薄くなっていたりしますから、みんなの物、学校の物になると「自分のものじゃないし
～どうでもいいや」くらいの扱い方をしてしまいがちなようです。

そこで、元プロ野球選手だった新庄剛志さんの「グローブ」を例にして、7月1日の放送朝会で
は次のような話をしました。約1週間前のことですが、どんなことを感じてくれたのでしょうか。

新庄剛志氏が48歳だった昨年12月にプロ野球界復帰を目指して、トラ
イアウトに参加したことが話題になりました。その新庄氏は、阪神タイガ
ースに入団して、その後メジャーリーグでも活躍。最後は日本ハムファイター
ズで現役を引退した選手です。なんと10回にわたる「ゴールデングラブ
賞」を受賞しています。この新庄氏が、17年にわたるプロ生活の引退セ
レモニーで、ボロボロになったグローブを頭の上に載せて涙ながらにファンへ
挨拶をした場面を見た人もいることでしょう。



実はこのグローブ、新庄氏が阪神タイガースに入団した時、初めてもら
った給料で買った(7500円)もので、17年間ずっと試合で使い続けていた
のです。練習ではほかのグローブを使っていましたが、試合になるとた
った一つのグローブを、日本でもアメリカでも使い続けていたそうです。そ
こに、新庄さんの道具を大切にする思いが見てとれます。試合後も毎日グ
ローブの手入れを欠かさず、壊れたら修理をして使えるようにしてしまし
た。実に4回もの大手術がグローブに施されています。

これほど大事に使い続けたのは、父親から「商売道具を大切にしろ！」という一言があったから
だといいます。プロ野球選手、しかも知名度の高い選手ともなれば、メーカーから無料で道具が提
供されます。でも、試合時はたった一つのグローブにこだわり、父親の言葉を守り続けたのです。
ですから、引退セレモニーの時に、自分自身の怪我でボロボロになった身体をグローブと重ね合わ
せて、「僕のグローブがもう使えなくなりました。それだけです」と引退理由を語りました。

最近の野球少年や高校球児だってグラブを何個も持っている時代において、これほど長く愛着を
持ってグラブとつきあった選手はとっても珍しいと思われます。各種ボールやシューズだって、古
くなったら新しいものに替えればいいのか、壊れたらまた買えばいいくらいにと思っている人は少
なくはないはずです。

新庄選手のボロボロのグローブは、10年前に父親が亡くなったとき棺に
入れたそうです。物だけでなく、親も大切にする気持ちは素敵です。ある野
球解説者が、「日本プロ野球史上、1位か2位を競う守備の選手は、イチロ
ー選手か新庄選手だ」と語ったという話もあるようです。

物の価値は、値段でも流行でもありません。物に対するその人の思いなの
だと考えます。今の時代は、簡単に物が手に入ります。だからこそ、物を大
切にする意味を考えてほしいと、子供たちに呼びかけました。ご家庭ではい
かがですか？

職員室前にあるBOXから溢れる落とし物類 ⇒



7月7日は『クールアース・デー』

2008年の洞爺湖環境サミットで定められた日です。自然や環境を守るために考えて行動できるようでありたい
と考えます。6年生がSDGsを題材に国語で学習を進めていましたが、身近にできることから一歩！

- ①食材の無駄をなくす工夫をしたエコクッキング
- ②風呂の残り湯の再利用
- ③電気機器などを
使用しないときにこまめに消して省エネ
- ④冷房に頼らない衣服や住まい方の工夫（クールファッ
ション・すだれ・グリーンカーテン等）
- ⑤環境にやさしいものを選択する買い物 など